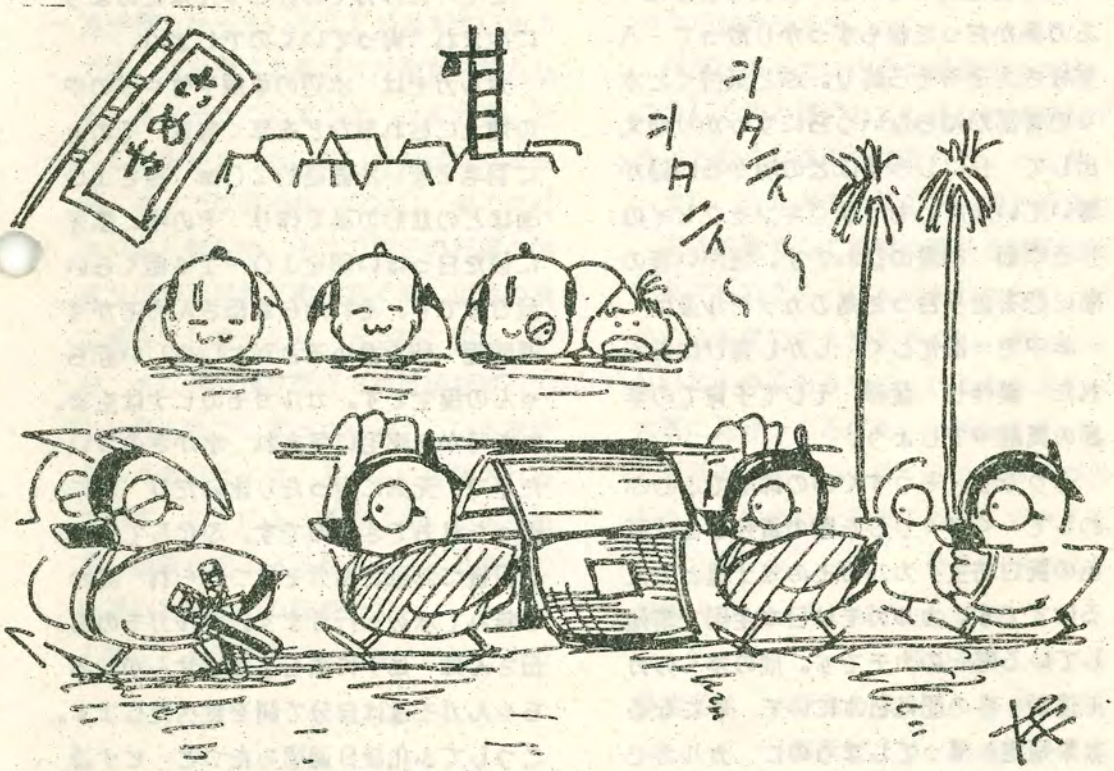
# すずがも通信　38

行徳野鳥観察舎友の会々報　1986.6

特集：カルガモ



「カルガモ様のお通りだい！」　市川 拓 画

[redacted]

[redacted]

# 特集　カルガモ

〈赤ちゃん頑張れ〉

花の命は短くて－といわれるように
あの華かだった桜もすっかり散って　八重桜さえそろそろ終り。ふと気付くと木々の青葉が知らないうちにすっかり萌え出して　目にしみるほどの明かるい緑が輝いています。もうすぐキンモクセイの香る季節　初夏の訪れです。短かい春の間に恋を語り合った鳥のカップル達は一年中で一番忙しく　しかし喜びにあふれた　巣作り　産卵　そして子育ての季節の真最中でしょう。

そうです。もうすぐあの綿毛でふわふわして　くりくりした瞳の黄色とこげ茶色の腕白坊主　カルガモのヒナ達と会えるはずです。カルガモは日本全国で繁殖している唯一のカモです。他の多くのカモ達が　冬の間は日本にいて　春になると繁殖地へ帰ってしまうのに　カルガモだけは日本で卵を産み育てているのです。

カルガモはとても地味な褐色のカモで顔には２本の黒線があります。嘴は黒く先端がオレンジ色をしているのが特徴です。他の鳥の多くは　雄が美しく雌が地味なのですが　カルガモは雄も雌も同じ色をしています。（多くのカモの雄達は繁殖後　エクリプスという雌に似た地味な色になり　その後また美しい色に戻るのですがカルガモの雄は一年中同じ色です。）

さて　カルガモの赤ちゃんはどのように生まれ　育っていくのでしょう。

カルガモは　水辺の草原や竹やぶの中の地上に枯れ草などを厚く敷き　その上に羽毛を敷いた直径約２０㎝　深さ１０㎝ほどの皿形の巣を作り　その中に象牙に似た白っぽい卵を１０～１４個くらい産むのです。それからお母さんガモが４週間程　卵を温めるとかわいらしい赤ちゃんの誕生です。カルガモのヒナは生まれた時から綿毛に包まれ　水かきのついた足で　元気に走ったり泳いだり　水に潜ったりもできるのです。ふ化して１～２日後にお母さんガモにつれられ　巣から離れて水辺へ行きます。カルガモのお母さんは　ヒナに餌を与えませんが　赤ちゃんガモ達は自分で餌を食べだします。こうしてふ化後９週間もたつと　ヒナ達は立派に飛び回る若鳥に成長するのです。

カルガモのお母さんは　ヒナをつれている時に人などに出会うと　翼をバタバタはばたき　傷をして飛べないようなふりをします。そして人が母ガモに気をとられている間にヒナ達はすっかり隠れてしまって　もうどこにいるのか分らなくなります。これは子供を守る為にマガモなども行う習性で　偽傷行為といいます。（他に　シギやチドリの仲間にも同じ様な行動をするものがいます。）



さて　あの元気な赤ちゃんガモ達。お母さんガモの後にくっついて歩いて　無事に水辺へたどり着ければよいのですが　池や沼は年々減ってしまっています。巣のある草むらと池の間に家が建ち　道路が横たわっていることが増えているのです。空を飛べる母ガモが池から離れた所に巣を作ってしまうと　さあ大変。どうしても池まで歩いていかねばなりません。地上では餌が採れないし　歩くのは泳ぐより難しい　そこで親子の行進の始まりです。けれど池に着く前に道路の溝に落ちてしまったり　犬や猫に狙われたり　人にみつかり母ガモだけ飛び去ってとり残されてしまったり－こういう訳でカルガモのヒナは　よく人に保護されるのです。ここに１つ資料（※）があります。観察舎で１９７６～１９８５の間に保護した傷病鳥の数値です。

入院した鳥達の中で一番多いのはカルガモで　１０年間に３０３羽　全体の１２．８％を占めています。その他よく入院するキジバトやスズメは全体の６．０％位でカルガモの半分です。地上を歩いて移動することが　いかに災難に遭い易いものかがわかります。

保護区の本土に大きな湿地があればこうして親とはぐれてしまうヒナの数がもっと少くなるのではないでしょうか。

また　カルガモ一家のお引越の時だけ交通整理をして無事に道路を横断させてあげられたら－日本のあちこちで　都会のまん中でさえ卵をかえし　かわいらしいヒナの姿をみせてくれるカルガモ。大事に見守ってあげたいと思います。

今年も　一羽でも多くのカルガモの赤ちゃんが生まれ　元気に成長していきますように……　　桑名　佐由日

資料（※）　「よみがえれ新浜」
傷病鳥受入数より

参考文献　「野鳥の事典」　清棲幸保著
「新浜だより」　運尾純子著

## 友の会活動ニュース

@”行徳にふるさとの小川を取り戻そう”というビラを福栄２、３、４丁目、新浜１丁目、行徳駅前４丁目の約５千軒にまきました。

@５月１１日、福栄公園でせっけん即売会を行いました。小雨がぱらつく中、たくさんの人がよってくれました。売れ行きも好調。何より、丸浜バードリバーをきれいにしようという私たちの運動が色々な面に広がり、色々な人が興味を持ち、応援してくれたのが、うれしい一日でした。

@”よみがえれ新浜”の展示をはじめました。５月１０日、必死になって仕上げたものです。観察舎１階の展示室の一角で、バードウィークの行事の一つとして展示しましたが、絵や写真を使ってできるだけわかりやすいものにしたつもりです。観察舎へいらした折にはぜひご覧ください。またご意見やご感想をお寄せください。だんだんに、より楽しく、わかりやすいものに発展させて行きたいと思いますので、プラン、アイデア、ご協力をいただきたいと思っております。　　（友の会事務局）

# 『春の小川』作戦　スタート

## 淡水源開発プロジェクト

丸浜バードリバーの水をきれいにし、保護区内に湿地を造成するための水源にしようという、丸浜バードリバー浄化計画は、夏になったらどうしようという心配の声にもめげず、『春の小川』作戦と名付けられ、スタートしました。

5月下旬現在の状況を報告します。

### トヨタ財団より助成決定

友の会では、トヨタ財団第4回研究コンクール“身近な環境をみつめよう”に『よみがえれ新浜 —— 水質の浄化と水鳥の誘致』というテーマで応募していましたが、予備研究助成チームに選ばれ、50万円の助成を受けることになりました。

応募総数140件中の20件のうちの1件に選ばれたのですが、4月1日より8月31日までの予備研究期間ののち、さらに10件が2年間の本研究に進み、最高500万円の助成が受けられます。この研究コンクールは、専門家を対象としたものではなく、普通の人の自由な発想に基づく研究に対するものですが、私たち素人の現状改善実験に社会的な評価が与えられたことはうれしいことであり、より多くの効果が現れることを目指して実験を進めたいと思います。

なお、この50万円は、水車の購入・設置費用（電線など）・電気代・水質分析委託費用などにあてられます。



### 水車の運転開始

5月3日午前11時より、水車の運転式がおこなわれ、水車は動き始めました。当日はあいにく小雨でしたが、十数人の会員や報道陣が見守るなか、メイン・スイッチが入れられ、水量の少なくなった丸浜川の泥水がはねあげられ始めました。川底が出ているような状況のため、片側の羽根にしか水があたらず、さびしいスタートでしたが、水量が増えるにしたがい、勢いよく水を飛ばすようになりました。と同時に、酸素を水に溶けこましています。思いの他、水音も静かですが、洗剤による泡の発生は全くの予想外の出来事でした。

この水車が、市川の新しい観光資源となるのではないかと、期待しています。

なお、何か異常を見付けられた方がいらっしゃいましたら、昼夜を問わず観察舎（97-9046 又は96-1582)まで御連絡ください。

### 水質調査

東京農工大学農学部環境保護学科土壌水界生態研究室（小倉紀雄教授）にお願いしていた水質調査が、鴨場警備中の警察官の護衛のもと、4月29日に行われました。

採水はボートの上より、丸浜川の両端と水車設置点の3か所で行われ、その後、研究室での分析が行なわれました。

結果は次号で報告します。

また、水車周辺の水中の酸素含有量の違いにより、水車の直接的な効果がわかるのでは、と期待されてます。

### 水車の設置経過

1：設置まで

85·11·16　東京湾洋上大学で宇井純氏より酸化池方式による浄化方法についてアドバイスをうける。

12·1　宇井純氏現地視察。水車設置を提言

86·1·13　栃木市滝沢ハム泉川工場の見学

トヨタ財団研究コンクール”身近な環境を見つめよう”に応募

水車設置へ向けて担当官庁へ働きかけ開始

2·6　水車設置許可申請（担当：千葉県葛南土木事務所）

トヨタ財団より内定通知

3·7　葛南土木事務所より内諾を得る

16　水車購入・組立

21、30・第一回底生生物調査

トヨタ財団より助成決定通知

4·4　水車設置・配線等の詳細図を葛南土木事務所へ

5　トヨタ財団説明会

17　配線工事等許可

21-26 配線工事

20·27 第二回底生生物調査

29　第一回水質調査

5·2　東京電力検査終了。水車を”せせらぎ1号と命名

3　運転開始

11　”よみがえれ新浜”展示（於行徳野鳥観察舎）

25　第三回底生生物調査

## 水車が動きはじめました！

私、もしかしたらハナオンチかハナメクラになってしまったかも。何のこっちゃ、とお思いでしょう。におわないのです。水路が。

全然臭気がわからなくなったわけではありません。特に塩浜橋から下流はたいてい臭いのです。それに、水車のあげる水しぶきの風下側に立つと、どぶくさい臭いがします。でもここ半月以上、臭いか、臭くないか、ということばかりきにしながら川ばたを歩いているので、いい加減鼻がばかになってしまったのではないかとも思うのです。何しろ私としては、水車の効果が上がったと信じたくてたまらないのですから――もっとずっとシビアで批判的な人がにおいをかいで比較してくださる方がいいのですが。

５月３日にようやく始動してから20日。幸いに故障も事故もなく、しっかり回っています。表を見る限りでは特に臭気については、めざましい効果があるような気がします。12日、流れてしまったさん橋を回収しにボートで塩浜橋まで川くだりをしましたが、水車の手前５ｍくらいからまっ黒になり、臭くなったことに驚きました。10日にも同じような状態が見られています。水車のためとばかりは言い切れませんがショッキングな事実です。

### 水車の効果はあるのかな？

| 水車使用前／使用開始 | | | | | | | 水車使用後 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 水 | | 底の泥 | | | | | 水 | | 底の泥 | |
| 月日 | 天候 | 排水 | 色 | 臭気 | 色 | 臭気 | 月日 | 天候 | 排水 | 色 | 臭気 | 色 | 臭気 |
| 4.27 | くもり | — | 澄 | 少し | — | — | | | | | | | |
| 28 | 雨 | 全部 | — | — | 黒 | 臭 | 5.6 | 雨 | 夕方全部 | 澄 | なし | 灰色 | なし |
| 29 | 晴 | — | 濁 | なし | — | — | 7 | 晴/曇 | — | 澄 | なし | — | — |
| 30 | 晴/曇 | — | すこし黒い | 少し | — | — | 8 | 晴/曇 | — | 澄 | なし | — | — |
| 5.1 | 晴/曇 | — | 黒 | 臭い | — | — | 9 | 晴/曇 | — | 澄 | なし | — | — |
| 2 | 小雨 | 夜中全部 | まっ黒 | 臭い | ? | 強い臭気 | ○ 10 | 晴のち曇 | — | 少し黒 | なし | — | — |
| ● 3 | 小雨 | — | 黒 | 臭い | — | — | 11 | 曇 | 一部 | 黒 | 少し | ? | なし |
| 4 | 雨のち曇 | — | 黒 | 臭い | — | — | ○ 12 | 曇のち晴 | — | 澄 | 少し | — | — |
| 5 | 晴のち雨 | 夜中全部 | 墨黒 | 少し | ? | なし | 13 | 晴 | 一部 | 黒 | 少し | — | — |
| | | | | | | | 14 | 曇 | 夕方全部 | 黒 | 少し | 黒→灰 | なし |

● 水車スタート

○ 水車の上と下で水の色がくっきり染めわけになっている（下手が黒、上手は澄）

５月１６日現在（設置後２週間）

☆運行・保定・騒音その他について、これという問題は起きていない。

☆これまでのところ、効果として考えてよさそうなのは――

水や泥の臭気が弱くなった（特に水車から欠真間水門の間）

水の黒変が遅くなった。

黒変した泥の回復（泥色に戻る）が早くなった。

☆水車のまわりが泡だらけになるのは夜遅く（洗濯やおふろのため？）

ところで、丸浜川バードリバーの上流は福栄公園、下流は浦安寄りの猫実水門です。その限りでは下流が水車の影響を受け、多少とも状態がよくなると考えるべきです。ところが、さにあらず。水位が低い時は上下関係はその通りで、左から右へ水が流れています。でも塩浜橋下にある排水路からの下水流入量の方が、上流からの流入より圧倒的に多いので、水位が高くなると、下から上への逆流が起こる上、下流から入ってくる水の方が黒くなっていることが多いのです。ですから水車の効果は、むしろ本来の上流の方で現われると考えるべきでしょう。

色やにおいを記録するのに、何とかもっと的確な方法がないかと悩んでいます。もう１つ、色の変化やにおいの発生の条件についても、しぼるべきポイントがありそうです。水面や泥の上を吹きわたった風が、ちょうど顔にあたる位置でにおいをかぐというのは、どうも風向きだけではなく、空気の上下動の影響があるようです。においを最も良く感じるのは、湿度が高く、微風の向い風（東寄りがよい）の場合で、かぜをひいたりにおいに慣れたりしていない時で、なかなか同じ条件にはならないものです。それに、”油くさい””どぶくさい””硫化水素臭”など、色々なにおいの質になると、もうお手上げ。

色は雨のあとのやや澄んだ状態から、緑褐色のにごり、うす黒いにごり、みどり黒いにごりを経て黒、真っ黒、墨黒となります。墨黒は今回初めて見る状態で、これも酸素供給の影響かも知れないのですが。この色が藍藻などのプランクトンのためか、硫化第二鉄のようなもののためかもわかりません。

さて、それにしても、私としてはどうも効果がありそうだと考えて有頂天になっているところなのです。この夏のうちに、ミジンコや糸ミミズがわっとばかりにふえて、岸近くがうす赤く見えるようになりはしないかと期待して、ワルノリのしすぎかなと反省しています。もしかすると、この会報がでるころにはめちゃめちゃに逆の結果が出て、頭をかかえることになるかも知れませんが、ともかく今はルンルン気分です。だって、川ばたのノイバラやスイカズラ、台湾桐、それにアシの若葉の香りだってわかるのですもの。（紀）

| | | | 水 | | 底の泥 | | | | | 水 | | 底の泥 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月日 | 天候 | 排水 | 色 | 臭気 | 色 | 臭気 | 月日 | 天候 | 排水 | 色 | 臭気 | 色 | 臭気 |
| 5.15 | 曇 | — | 澄 | なし | 褐 | なし | 5.21 | 雨 | 夜全部 | 澄 | なし | 褐 | なし |
| ○16 | 晴 | 午後全部 | 澄 | なし | (褐) | なし | 22 | 晴 | — | 澄 | なし | — | — |
| 17 | 晴（暑） | — | 澄 | なし | 褐 | なし | 23 | 晴 | 午後大部分 | 澄 | なし | 褐 | なし |
| 18 | 晴のち曇 | — | 濁 | なし | — | — | 24 | 晴後曇 | — | 澄 | なし | — | — |
| 19 | 晴後曇（暑） | — | すこし黒い | なし | — | — | ○25 | 曇 | — | 濁 | なし | — | — |
| 20 | 雨 | 9時頃から全部 | — | なし | 灰色1部黒 | — | 26 | 晴 | — | 黒ずむ→黒 | なし | — | — |
| | | | | | | | 27 | 晴 | 昼大部分 | まっ黒 | なし | 黒ずむ褐 | なし |
| | | | | | | | 28 | 晴 | — | 黒ずむ | 少し | — | — |

## 底生動物調査

『丸浜バードリバーを調べよう』で皆さんの参加を呼びかけていましたが、第1回が3月21・30日、第2回が4月20・27日に、第3回が本日行われました。

欠真間三角の福栄公園寄りから、猫実水門までの間に8つの調査ポイントを決め、採泥器で川底の泥を取り、そこにいる生物を探すものです。

水車設置地点より猫実水門の間では、何も見つかりませんでしたが、観察舎前から欠真間三角の間では、イトミミズ・ユスリカの幼虫（釣に使うアカムシ）・ハエのさなぎ・小さな巻貝（種類が不明な幼貝？）が見つかりました。詳細は別紙の通りなのですが、欠真間三角の中央を除くと恐ろしく少なく（いないに等しい程）、死の川の一歩手前と言えます。水車の効果により、多くの生物が住む川にしたいものです。

水車稼働後の3回目の調査では、取ってきた泥の臭いが、前よりずっと少なくなり、もしかしたら水車の影響ではないかと推測されています。

なお、当分の間は毎月調査を行ないます。

## 水を調べる方法には

川や海の水の様子を知るには、化学的（一部は生物的）にその成分・性能を調べる水質測定のほかに、そこに住む生物を指標とする方法があります。生物指標による方法は、割合と最近確立された方法ですが、水質測定に比べると、①より早く変化が現れる（緩やかな変化はそこに住む生物が吸収してしまい水質測定の数値に出るのは遅れる）　②24時間生活している生物の方が一時点の結果でしかない水質測定より正確な結果がだせる　③安価にできる　というような利点があります。

特に丸浜川は、人為的に水位が変化し、人間の生活によって水質も変化するという不安定な環境ですので、化学的な成分測定だけでは、川の本当の状況を知ることはできません。そこで『春の小川作戦』では、底生動物の調査に重点をおいています。

| | イトミミズ | | | ユスリカ | | | ハエのサナギ | | | 巻貝の幼貝 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 調査回数 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| St. Ⅳ | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| St. Ⅴ | 3 | 0 | 0 | 7 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 61 |
| St. Ⅵ | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| St. Ⅶ | -- | 58 | -- | -- | 0 | -- | -- | 0 | -- | -- | 0 | -- |
| St. Ⅷ | 0 | 1 | -- | 0 | 0 | -- | 0 | 0 | -- | 0 | 0 | -- |

調査回数　1：3月21・30日　2：4月20・27日　3：5月25日
＊：他に死貝80　　--：調査せず



## 野鳥紳士録

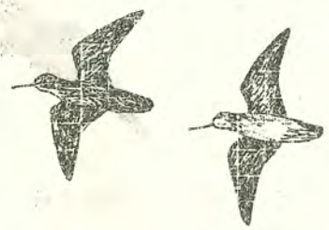
ハシボソミズナギドリ－6月　春から初夏にかけて　保護区で生まれた命達がすくすくと育っています。カルガモ　キジ　バン　そしてセイタカシギ。ぽやぽやの綿毛の残っているもの　幼いながらも親の姿に似てきたもの。様々な生物の多くの命が確実に育っています。この頃南半球で生まれたハシボソミズナギドリも日本へやってきます。梅雨入り前の風の強い日には　巣立ったばかりの若鳥が餌もとれずに衰弱し　あちこちで落鳥したものが観察舎に運び込まれます。今回は　そのハシボソミズナギドリについて。漢字では「嘴細水薙鳥」。「ミズナギドリ」というのは　彼等の飛行法に由来しています。彼等は海上の風を利用して水面を薙ぐようにして飛行します。この飛行法は　エネルギーの消耗も少く　長時間　高速を維持して飛ぶことができます。しかし　ハシボソミズナギドリは風を利用するよりもむしろ　はばたいて飛ぶことの方が多いそうです。英名は「Slender-billed Shearwater」。Shearwaterのshearとは「摘む」という意味で　「水を摘む」様に飛ぶ彼等の飛行法に由来しています。学名は「Puffinus tenuirostris」。属名のPuffinusは英語のPuffin（ツノメドリ）から来ています。これは　英国の「博物学の父」と言われる　Ray　がミズナギドリの幼鳥をツノメドリと誤認したことに始まります。種小名のtenuirostrisはラテン語のtenuis（細い）から来ていて「細い嘴」という意味です。

風の強い日　運尾さんの手で浦安から放されたハシボソミズナギドリが皆さんの街の上を通ることがあるかも知れません。頭上に御注意を。

キアシシギ－梅雨　一月程も続くじめじめした霧雨。春先　南から渡ってきた鳥達も　小さなヒナと一緒にじっと梅雨が明けるのを待っています。しかし　長くうっとおしい雨も　日本の自然にとってなくてはならないものなのです。そして7月に入り　梅雨明け間近かの頃になると　もう秋の渡りの第一陣としてキアシシギの数がぐっと増えてきます。春とは違い　鳥達の秋は実際の季節よりもかなり早く始まるのです。

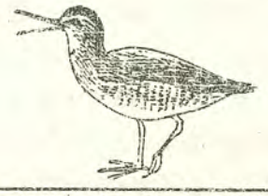
キアシシギ　漢字では「黄足鷸」。《千葉県新浜の御猟場では　戦前は古くから伝わる千鳥笛の御猟を年中行事として　干潟に築場をつくり　満潮時に沖から飛来するシギ　チドリ類をここに誘い込み無双網で捕えた。しかし今ではこの一帯の干潟は大部分が埋立地と化し　この猟法が昔語りとなるのもそれほど遠くない》。清棲幸保氏の「野鳥の事典」にはキアシシギのところにこんな記述がありました。

英名は「Asian Wandering Tattler」。Wanderingというのは「さまよう」という意味で　分布域が広く　著しい距離の渡りをするので　こう呼ばれるそうです。
また　Tattlerというのは素早く盛んに鳴くその声から来ているそうです。



学名は「Tringa brevipes」。属名のTringaはギリシア語のtryngasが語源で（クサシギ）のことを指しています。種小名のbrevipesはラテン語のbrevis（短い）から来ていて　「短い足」という意味です。梅雨が明け　照りつける日射しが帰ってくると　保護区では「鳥達の秋」が盛んに動き始めます。

－荒井　八太－



## 鳥の国から　観察舎だより

スズメの赤ちゃんが、おかあさんにおねだりしているほほえましい光景が見られる季節になりました。ポーチにおいてあるパンの箱に気付いて、スズメやムクドリがわいわい集まっています。そこに目をつけたのがわが家の飼い猫、ボンド君。犠牲者、すでに1羽半（1羽はどうやら逃げた）。怒ったダンナ様につながれて、半日自由をうばわれました。でもちゃんと反省しているのかどうか。

例年のように、と言うより例年以上に鳥が少ない！ともかく、サギやオオヨシキリすらあんまり見られない。あんまりだ！それでもほんの少しずつですが、春のシギの渡りは一応みられましたし、コアジサシも渡ってきました。気温が低いせいか、全体に少しずつ動きが遅いようです。

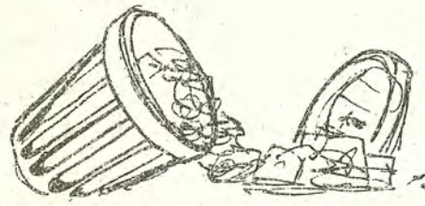
ヒマを見つけては、丸浜川のカウントをやっています。結構いろんな鳥が見られます。20日にはコヨシキリがさえずっていました。イソシギが測点Wのあたりでよく見られるので、繁殖しているのかも知れません。今、特に気にしているのはバンのつがい数で、この時期に見られるのはほとんど確実な繁殖つがいなので、丸浜川でバンを見掛けたら、どこにいたか、ぜひ教えてください。たぶん、6から8つがいがすんでいるはずですが、まだ1羽もヒナを見ていません。

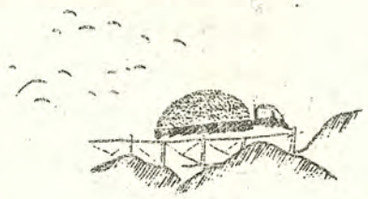
それにつけても、”春の小川作戦”が成功して、次の池づくり－（カエルコール作戦とか、ほたるこい作戦とか、カッコいい名前をかんがえているところ）にかかれるといいのですが。

ヨシゴイとタマシギを待ちながら、ワープロと遊んでいるところです。（純）



## はおと　ゴミがふえて、鳥が減って





5月12日新浜自然観察会は、60余名の方が参加され、43種（保護区含む）の野鳥が確認されました。しかし妙典地区では水鳥が少ないようでした。

昨年6月に市街化区域に編入された妙典地区では、あちこちに赤い測量用のクイが立いました。しかし区画整理のための工事は現在はまだ行なわれていません。

ゴミ、ゴミ、ゴミ、（フトン、イス、オモチャ、冷蔵庫、ペンキ、廃材　　）目に余るゴミが、休耕地や道ばたに捨ててあります。地元の心ない人が捨てたと思われるもの、ペンキかん、廃材、カワラ等、当然その業者が責任をもって処理しなければいけない産業廃棄物　　（イスや電気製品などまだ使えるゴミもまざっている）。このゴミの不法投棄にとてもやりきれないものを感じました。

これらのゴミをみていると、他人の土地へゴミを捨てる荒れた人の心を変え、ゴミを出す生活（家庭）や産業構造のマイナス面をしっかり見すえて、マイナスを少しでも少なくするようにしていかねば、これから育つ人々まで重い負担を背負うことになると思われます。

では、どうやったらよいのでしょうか。

1：リサイクル

冷蔵庫などの製品は、もう一度生産した工場へもどし、再利用するシステムをつくり出す。行政も企業に働きかけるとともに、住民の協力をえて、お金をかけても回収、再利用をはかる。沼津市では、これによってゴミの量が1／10に減っている。

2：企業の責任

捨てると有害な産業廃棄物（ペンキかん等）は、当然会社で責任をもって処理すべきであり、社会に対し責任ある行動が、企業に強く求められている。

3：自然のよさを知らせる

地元の人が安易な気持でゴミを捨てることに対し、妙典の蓮田やアシ原が首都圏の中で残された貴重なすばらしい自然であり、水鳥がたくさん見られ、行徳の人にとっても誇るべき自然で、この地域と自然を保護する心がもっと広がれば、このような状態にはならなかったと思われる。

これからも、お金ではかえられない自然のすばらしさを地域の人や子供たちに訴えていく必要を強く感じました。

## はおと　川をきれいに

この日、友の会では福祭公園で”せっけん”の販売を行いました。

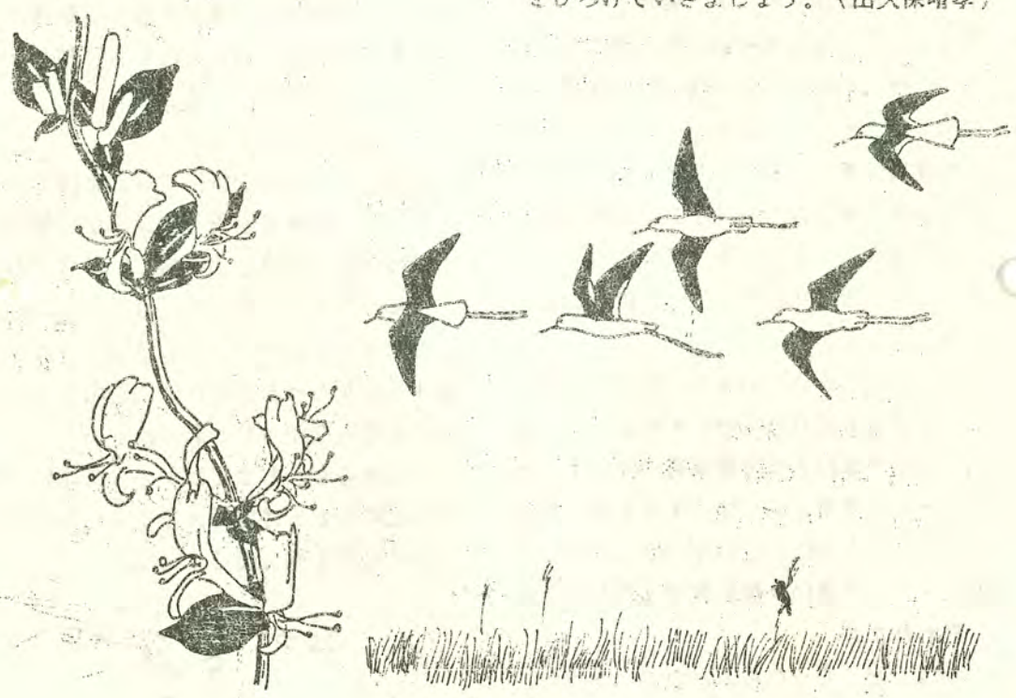
また観察舎前の丸浜バードリバーの水の浄化をはかるため、ウナギ用水車を使ってとりくんでいます。家庭排水によって、黒くなった水もこれによって徐々にきれいになりましたが、合成洗剤のアワがぶきみなほどたっていました。

合成洗剤は、せっけんに比べると、微生物による分解が著しく悪く、生物にとって有害です。まず、家庭の洗剤を合成洗剤（燐リンを含む）からせっけんに徐々にでもよいから切りかえていきましょう。多少の不便よりメダカのすむ川を取りもどしていきましょう。

毎日、毎日すてられているゴミのゆくえを追って、見て（考えて）みましょう。ビニール等の燃えないゴミによって、海や山間の谷津田が埋め立てられ、自然がいためつけられています。ゴミを燃やすことによって、資源としての石油、紙、木等が失われ、大気が汚れています。

生産活動と消費生活の関係を根本から考えなおし、ゴミを出さない（リサイクル）生産消費社会を早くつくり出していかないと、都市はゴミによって占拠されて滅んでしまうでしょう？

今は、金が多少余計にかかり、非効率的であっても、長い将来や子供たちの負担（負の遺産）を考えて、ゴミの量を減らし、環境を悪くしないように、リサイクルの輪をひろげていきましょう。（田久保晴孝）







4月27日の”行徳の海に親しむ会”と、5月11日の”新浜探鳥会”に参加したお友達から、どっさり感想文をいただきました。ぼっすいして、掲載させていただきました。柏市の光ケ丘小学校4年5組のみなさん、港区のレインボー教室のみなさんありがとうございました。

### 浦安のひがた　　石川　加奈子

わたしは、ひがたに行く前の夜、22時30分ぐらいまで、そわそわ、こうふんしていて、おかあさんにおこられてしまって、しかたがないのでふとんの中にもぐって、いろいろひがたのことを考えていつのまにかねむってしまいました。

ぎょうとくのひがたは、こんでいたので、浦安のひがたへいきました。とても風がつよくて、少しさむかったけど、大きなかにがいました。海はあまりきれいでは、ありませんでした。でもとおくからみると、サーフィンをやっている人もいてきれいに見えました。

わたしは、すぐビーチサンダルをはいて、海のひがたであそびました。つめたいみずがあしくびぐらいまでありました。おくの少しふかいところにいくと、加藤さんのビーチサンダルが、かたいっぽなくなってしまいました。わたしもいっしょうけんめいさがしてあげたけど、みつかりませんでした。だからあきらめて、おべんとうにしました。しきものをひいたら、風でなんともうえにあがって、おべんとうにほこりがはいってたいへんでした。でもたのしかったです。

## ひがたの観察会

### ひがた　　五十嵐　潤

ぎょうとくへつくと、やちょうのかいの人がいて、おはなしをしてくれました。本とうはぎょうとくの海へいくのだったけどこんでいて、うらやすの海岸へいき、あさりをとりました。かきもあるのでけがをする人がいて、ぼくはけがをしないようにしました。たまにしんかいくんが、あさりをくれました。いっちゃんはかにをとりました。ぼくもみつけようとしていたら、おたまじゃくしみたいなのがいて、ぼくはおたまじゃくしだとおもってとらなかったけど、あとで、やちょうのかいの人があなごをみつけて、見てみるときっきのおたまじゃくしみたいなので、さきにとっとけばよかったと思ってがっかりしました。

### きのうのこと　　森田　雅美

かいそうが、たくさん、ありました。かいそうが、くらげのように思いました。みんな貝には目はむけないで、カニ、ヤドカニに目をむけました。

私は、ちいさな、カニも、つかまえられませんでした。

お昼ごはんを、食べ終わったときに、また海に行こうとしたら、なみが引いて、岸が、広くなりました。さっきのふかかった所が、さっきのあさかったところのようになりました。

# 新浜探鳥会

たのしかった一日　　平野真大

ぼくは、どじをして、すべったり、わすれものをしたりしました。でも海で。あさりをとったりしたら、やなおもいもなくなって、むちゅうになって遊びました。はだしになるとかいがらが足にささったりして、「もうやだ。」だれかがいうと、「おべんとうにしよう。」と言って食べるよういをしました。でもすなが風にのっておべんとうにはいってこまりました。

ひがたにいって、かにをとったり、あさりをとったりしていたら、だれかが「わー」といったので、びっくりしました。

ビーチサンダルが海の中にはいってしまったのです。それからつぎつぎとビーチサンダルがなくなり、さがせなくなりました。「あーあ」とためいきをつきました。

楽しいしおひがり　　え本　章文

きのう、ぼくは、クラスの人と、先生としおひがりにいきました。

やちょうかんさつ舎の人たちが、行徳の駅でまっていました。そして、車にのって、浦安のひがたまでいきました。ぼくたちのグループはあとからいきました。

いったときにはもうすでに、みんな、しおひがりをしていました。ビーチサンダルをはいてやりました。アサリという貝をとりました。

いがらしくんのビーチサンダルをさがしてたら、アサリがみつかりました。

うれしかったです。

そして、野鳥かんさつしゃにいって、とりのことをいろいろおしえてもらいました。

それから、しんかしわにかえりました。そのころには、アサリはつぶれていました。4ひきつかまえて、2ひきつぶれて、2ひきいきていました。

バードウォッチングに
行ったこと　　杉田　憲司

僕は、初めてバードウォッチングに行った。鳥を双眼鏡や望遠鏡で見るのも初めてだった。バンのこどもやオオヨシキリはかわいかった。サギの種類は真っ白で印象に残った。ぼくは野鳥の会の人がすごく遠くにいる鳥をすぐ見つけたのに特におどろいた。ぼくもそれくらいになればいいなと思った。野鳥観察舎に行って一階、二階、三階を見てまわった。特にすごいと思ったことは二、三階に望遠鏡がずらりとならんでいたことだった。野鳥観察舎を出て特別保全地区という地区に入ってもぼくは一、二羽ぐらいしか鳥は見れなかった。だけど本当によかったとおもった。これからもバードウォッチングに行きたいと思う。

バードウォッチング
田中　百恵

新浜のバードウォッチングに参加しました。駅からずっと歩きながら鳥をさがしました。さいしょに見たのがキジバトでした。私達がもっていた双眼鏡では、ぼけてしまってあまりよく見えなかったので、説明してくれる人達がもってきたので見せてもらいました。そうしたらすごく近くでなにをしているかまではっきりよく見えました。

近くのおじさんが「これは何の食べものかわかる」と私達に聞きました。千恵が少し考えてから「ふきのとう」と答えました。ふきのとうなんかめったにみられないので、よくよく見ておきました。

帰りにカルガモの親子を見ました。参加してよかったです。



バードウォッチング
岡崎　裕子

行徳でのバードウォッチングへ参加した。行徳の道を歩きながら鳥を観察していくので、「おもしろそう」「どのくらい歩くのだろう」と、期待と不安が入りまじっていた。

駅前には、小さい子からおじいさんまで、私が考えていた数よりも多く集まっていた。みんな双眼鏡や望遠鏡を持っていたので「熱心だなあ」感心した。

道路でバードウォッチングをすることを馬鹿にするものではないと歩いているときに思った。見かけた鳥は数多くいたからだ。カワラヒワ、キジバト、オオヨシキリ、ムクドリ、コサギ、バン、本当はもっといたのだが、あいにく説明が聞こえず、あまり記録できなかった。

中学になると、バードウォッチングの機会がなくなるので、少し残念な気もしますが、私は、愛鳥週間だけでなく、いつも鳥のことを大事にしてあげたいと思います。

バードウォッチング
菊地　伸

うれしい気持で8時18分におとうさんと家を出てレインボー教室に行きました。

電車で駅まで行ってから野鳥の会の今日の予定や注意を教えてもらいました。

さいしょ、東さんのわきにくっついていたら、オオヨシキリが鳴いていました。どんなふうに鳴いているかはわからなかったけど、スマートで声がとてもきれいでした。

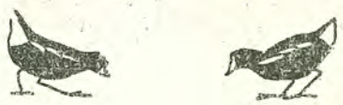
とんでいる鳥を見てぼくが、「何だ。あの鳥。」と言ったら、くま田さんのおかあさんが、「なんだ、スズメじゃないか。」と言いました。そしたらスズメはにげていきました。野鳥の会の人が、「何食べたか見てみな。」と言ったので見に行ったら米つぶのかたまりがありました。ぼくは「よく見つけたなあ」と思いました。

えど川ほう水路でシギのいろいろなしゅるいを見てからごはんを食べました。つかれてたのでおいしかったです。

その後かんさつしゃに行って、鳥のバッチをもらいました。そして、うめたてちにいきました。

そこは11年前うめたてられました。けれども鳥がさくらのたねをおとしたり、鳥のふんが土になったりして木や草がはえたと言っています。ぼくはしぜんってすごいなあと思いました。

ぼくは、もっとしぜんを大切にしたいと思います。そしてもっと鳥や動物をふやしたいと思います。



勝　俊裕

バードウォッチングへいった。
町を、あるくうち鳥がたくさんいた。ぼくは、かんきょうがわるいのに、ここには何で、すんでいるんだろうとおもった。
たくぼさんにきくと、
「その鳥は、かんきょうに強い鳥だよ。」
といった。町をあるいているうちに一つ勉強になったと思う。

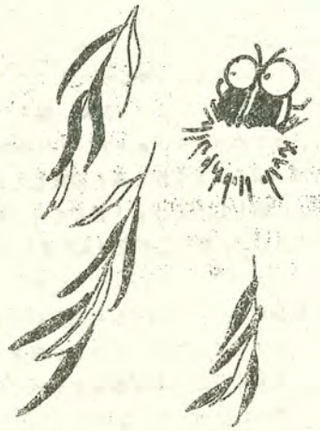
うめたてちへいって、キジがいて、ぼくはびっくりした。

そして、くさ、花は、しぜんの力で、はえたのですごいなと、おもった。

## 掲示板

### 市川の海研究会

毎月第1・3土曜に船橋漁港から舟を出し、塩浜沖の調査をやっています。また隔月第3土曜（7月19日・午後6－9時）行徳公民館3階で例会を開いています。最先端の海の話が聞かれます。参加自由。東邦大学海洋生物研究室[redacted]風呂田（ふろた）まで。



### サロン・ド・ナチュールへどうぞ

毎月第2・4木曜、市民談話室で「自然を語るつどい」をやっています。自然を愛する方、ぜひどうぞ。[redacted]須藤

### シーサイド・ペインティングに　参加します

浦安市入船の海の見える岸壁に、休日や夏休みを利用して、300mの絵を描きます。そのうちの50mを友の会でやらせていただくことになりました。協力してくださる方、鈴木[redacted]までご連絡下さい。

### 友の会例会

毎月第二日曜、午後4時ごろから観察舎で。編集や行事を決めたり、おしゃべりをしています。ものずきでヒマのつくれる人、学生さん、ただ働きの好きな人、特に歓迎。たいていお菓子があります。

### 新入会員

[redacted]



## 行事案内

誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜探鳥会（毎月第2日曜日）　6月8日、7月13日

集合：東西線行徳駅前　午前10時
解散：行徳野鳥観察舎　午後3時頃
担当：東　良一、田久保晴孝
持物：昼食、飲物、バス代（大人190円、子供100円）、帽子

すっかり緑の濃くなった蓮田では鳥達が子育てに大忙しです。かわいいヒナ達にめぐり会えるかもしれません。江戸川放水路の土手で昼食後、バスで保護区へむかいます。歩きやすい服装、はきもので。小雨決行。

☆定例園内観察会（毎月第1・3日曜日）　6月1日・15日、7月6日・20日

集合：行徳野鳥観察舎前　6月；午後1時半　7月；午後3時
解散：　〃　6月；午後4時頃　7月；午後5時頃
担当：観察舎　蓮尾、協賛　友の会

保護区で繁殖する鳥もめっきり減少。早くここかしこでヒナの姿が見られるよう改良したいものです。夏場は集合時間が変わりますので御注意下さい。

☆夕涼み観察会　7月27日（日）

集合：行徳野鳥観察舎　午後5時
解散：　〃　午後7時頃
担当：観察舎　蓮尾

ネグラへ帰る鳥達を観察しながら保護区をひとまわりしましょう。虫さされ予防のため、長袖・長ズボンでおいで下さい。

☆丸浜バードリバーを調べよう（毎月第4日曜日）　6月22日、7月27日

集合：行徳野鳥観察舎　午後1時
解散：　〃　午後5時頃
担当：蓮尾[redacted]
持物：長ぐつ、タオル、ビニール手袋

5月3日から水車もまわり始め、水質浄化プロジェクトも順調に進んでいます。月に一度、第4日曜日に舟を出して丸浜川の生物調査をします。参加してみませんか。汚れてもよい服装で。

☆サギ山見学会　　6月29日（日）

集合：行徳野鳥観察舎　　午後1時半

解散：　　〃　　午後4時頃

担当：蓮尾

定員：30名

予約制ですので蓮尾[redacted]まで電話でお申し込み下さい。定員になり次第、打ち切らせていただきます。小雨決行。

## ---------- 水色モニター募集 ----------

"春の小川作戦（水車利用による汚水浄化実験）"の一環として、水の色の変化を記録し、比較してみたいと思っています。丸浜川バードリバーでは、水車を動かす前は、だいたい二日から三日ほど水が滞留すると、色が黒く変わり、臭くなってきました。他の場所ではどうでしょうか。どぶのように汚れてしまった川やため池などを毎日ながめて悲しい思いをしている方、一緒に記録をとっていただけるとありがたいのですが。

◎期間：7月10日から8月10日（できれば毎日）

◎方法：水の色を目で見て記録する（記録用紙をお送りします）

◎汚れた川や池ならどこでもかまいません。

◎詳しくは蓮尾[redacted]までお問いあわせください。

---

編集後記　5月22日東家に次女誕生。そのかいあって、（？）今回の編集作業に活躍したワープロは何と5台！ちなみに、この編集後記（私の分）は若本康平君（高一）が打ってくれました。　ああしんど。　　―純―

○久しぶりの登場です　東さん他の人達にすっかりまかせっきりで　ほんの少しだけ反省！　その東さんの奥様　6月産卵予定のため　しばらく夏眠中（？）　かわいらしい（と思うけど）ヒナをつれてくるのはいつ頃でしょうか。　　―途―

○今年もまた家の近く(行徳)でオオヨシキリが電柱のとでさえずっています。しかし年々アシ原が減って……ケケ、ケケと湿地を残せ…
感想、日ごろ感じていることなどをお送り下さい　―はるたか―


すずがも通信　No. 38　　1986年6月1日発行

発行所　行徳野鳥観察舎友の会　　年会費　一般1000円、ジュニア500円

発行人　東　良一　[redacted]

事務局　[redacted]

編集　田久保晴孝、新妻途夫

行徳野鳥観察舎　[redacted]